

オープン間近か 県立天草青年の家



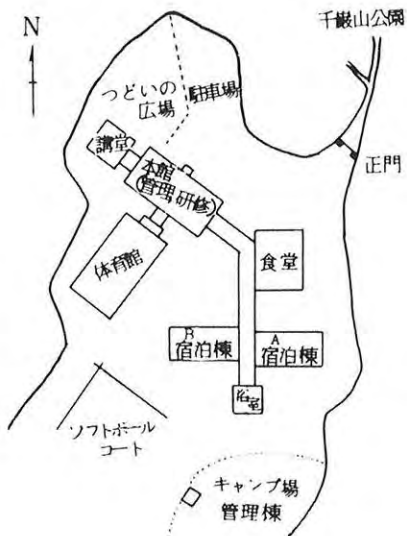
潮の香薫る松島町合津に建設を進めてきた県立天草青年の家が、三月中旬オープンします。

青年の家は健全な青少年の育成をはかるために設けられたもので、青少年をはじめ各種のグループ・団体等が規則正しい集団宿泊生活しながら、討議や講義・スポーツ・レクリエーション・野外活動などの研修を行なうための施設です。

申し込みの方法は、最寄りの市町村教育委員会、教育事務所、県庁社会教育課、青年の家にある申込書に必要事項を書いて、利用の十日前までに直接青年の家あてお申し込み下さい。

詳しいことについては、電話・松島局 (09695) - 6 - 1650へどうぞ。

▼快適な環境(青年の家上空より天草五橋を望む)



一町(約一〇九メートル)四方の格子の中にはめ込まれたモザイク模様としてみえた。しかし、現地では昭和四十六年より県営ほ場整備事業が始まっており、ブルドーザーによって押しならされたあとには、一律三〇アールの水田が登場していた。かつての「子ぶな釣りしかの川」は、全くよどみのないコンクリート張りの機能的な排水路に置きかえられていた。

また、先日訪れた阿蘇谷東部の一角にも、同様のほ場整備が行なわれていた。そこでは牧草イタリアの緑があざやかで、周囲の湿田からひとときわ目立つ景観であった。しかし、それよりも注目を引きつけたのは、不規則に見える一帯の「千枚田」に、条里遺構を見出したことである。それも空中写真を通してのことであり、書物からは得られない歴史の積み重ねを強く感じたのである。

思えば、自然本来の景観が人間によって広く、かつ徹底的に変えられてきたところは、水田地帯においてほかにあるまい。それは、どの空間よりも多数の人間が営々として投下した労働の累積結果であり、水田には古代社会に生きた人々の生活のあとが、刻みこまれている。

それらの地割は、河川の氾濫原、土砂の堆積が多い扇状地、かつての河川の乱流のあとなどをそのまま反映しており、条里制も、もちろんそれと無関係ではない。

ひるがえって、今日、人間が自然を革新する力が大きく、また短時間で可能である。開発にあたっては、長い間の人間と自然の調和を無視することなく将来を見通したものであってほしい。われわれは自然の前に傲慢であってはならぬと思うのである。

(県立教育センター研究員)

火の国の空の若さよ

出田 憲二

大阿蘇の煙絶えせず
銀杏城高くそびゆる

ああ火の国の空の若さよ

この熊本県民の歌の大コーラスで第五回国民体育大会は最高潮に達した。自分の作曲したこの曲を自ら指揮することが出来たそのよるこびと感激に私の真新しい長い白いタクトは大きく力強く秋風を漸った。ああ何とすばらしいことよ、あの感激とその堂々たる偉容、県警、自衛隊、県下中学生連合六百名編成の大プラスチックバンド、一千名の女子高校大合唱団、五十名のトランペットファンファー

レ隊、色彩豊かな役員、選手、そして大観衆、文字通り人、人、人の波、中央指揮を担当した私は緊張と重責で、いくたびか武者振いさえ感じた。

校のプラスチックバンドは全国でも有名になり、県吹奏楽界のため県警、自衛隊と共に、大いに貢献している。特筆したいのは山鹿、八代一の両中学と真西高、最近では湖東、帯山中、熊工高などの活躍を忘れてはならない。リード合奏では熊本国体から数年を経て結成され、現在では日本一を誇っている球磨郡湯前中のリード合奏団を特にたたえ、黒髪、本渡南、玉名、帯山小などが、県下のリード合奏に値する。

熊本県民の歌、国体ファンファーレと自分の曲がこの大会で二つとも用いられたことは、まさに感謝、感激にたえない。さて、この国体終了の頃から、わが熊本県の音楽界、特に吹奏楽・リード(器楽)は大きく前進の一途をたどるのである。吹奏楽コンクール、リード合奏コンクールが県下で始まったのもこの直後である。よく質問されることであるが、熊本県の音楽のレベルはどの位か?の問に対し私は躊躇せず「全国上位」と答える。まず合唱部門では、すでに小中高校、いずれも全国合唱コンクールで優勝の経験を持ち、層が広く優秀であること立証している。碩台小、附属小中、県立第一高校などがそれである。吹奏楽では県警が草分け的存在で、自衛隊、九州産交、熊本市交通局、消防本部、九州電通、国鉄など、職場に次々とプラスチックバンドが誕生し、一方学校では九州学院を始めほとんどの高校にプラスチックバンドが結成され、中学では出水中を筆頭に全県下に爆発的に新設された。特に九州学院高

私は約十五年間、県警音楽隊を指揮、県下をくまなく巡回し、きょうは天草、あしたは五ツ木と、その思い出は尽きないが、この間多くの県民の皆さんから感謝され、激励をいただき、ご指導下さったことに対し、ここに心からお礼を申し上げる次第である。熊本交響楽団、熊本市民吹奏楽団を作り、県下消防ラッパ隊、トランペット隊を指導、育成したのも懐かしい思い出の一つである。

(熊本音楽短期大学長)